

ざ・ちゅうおう ぶれす

2017年11月号 第90号

発行：世田谷区立中央図書館
 世田谷区弦巻3-16-8
 TEL 3429-1811
 FAX 3429-7436

図書館ホームページ（パソコン） <https://libweb.city.setagaya.tokyo.jp/>

（携帯） <http://libweb.city.setagaya.tokyo.jp/i/>

「ざ・ちゅうおう ぶれす」は、世田谷区のホームページでもご覧いただけます。

秋の図書館コンサート



秋も深まる10月9日に国士館大学吹奏楽部による「秋の図書館コンサート」を開催しました。

ルパン三世のテーマや美女と野獣などおなじみのアニメの主題曲や映画音楽で、お子さんから大人の方まで楽しめる内容でした。（参加者150名でした。）



中央図書館カレンダー

11月							12月							1月							2月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4						1	2		1	2	3	4	5	6					1	2	3
5	6	7	8	9	10	11	3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13	4	5	6	7	8	9	10
12	13	14	15	16	17	18	10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17
19	20	21	22	23	24	25	17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24
26	27	28	29	30			24	25	26	27	28	29	30	28	29	30	31				25	26	27	28			
							31																				

開館時間

火～日 10:00～19:00
 月・祝・休日 10:00～17:00

■ は、中央図書館休館日です。
 ■ は、17時に閉館です。

THE SETAGAYA CENTRAL LIBRARY PRESS

書を調べ、町へ出よう～世田谷八幡宮の奉納相撲～

今回は、図書館の地域資料を中心に、江戸時代から続くとされる世田谷八幡宮の奉納相撲を調べてみました。

世田谷八幡宮は、東急世田谷線宮の坂駅のすぐ西にあり、地名・駅名の由来になっています。天保5～7年（1834～6年）に刊行された『江戸名所圖會』には、豪徳寺とともに全景の版画が収録されています。

鳥居をくぐると右手に弁天池があり、階段を登りつめると社殿が現れる姿は現在とほぼ変わりありません。周囲は田んぼのようです。

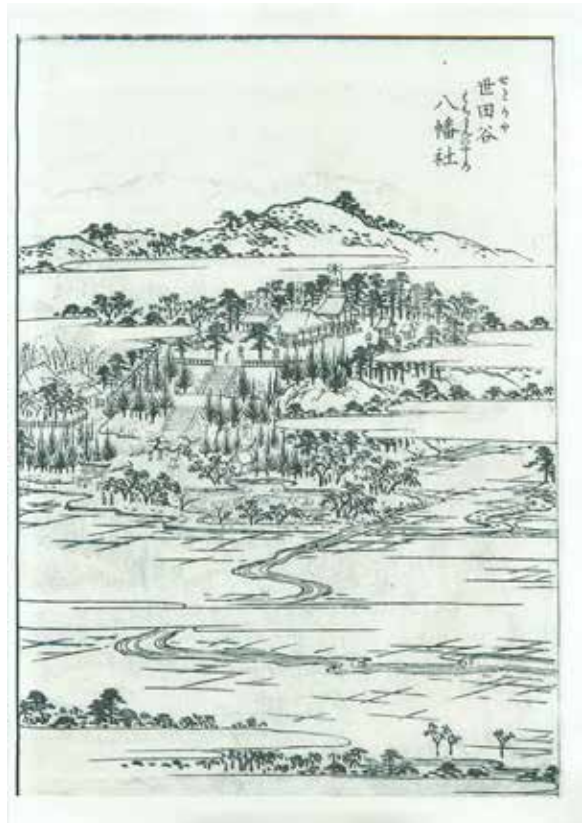
同資料には、「鎌倉鶴岡八幡宮の摸（うつし）にして、勧請の年暦詳ならず。天文15年（1546年）吉良頼貞※当社を建立すと言う。…祭礼は8月15日にして社司大場氏の奉祀たり。」とあります。※吉良氏は当時の世田谷城主で、頼貞は吉良頼康の幼名。

一方、日本の国技・相撲ですが、人が組み合い力を競う姿は紀元前三千年のメソポタミアの像や、紀元前二千年のエジプトの壁画、紀元前の中国の漆絵にも描かれるなど世界中で見られます。国内の「相撲」としては、『日本書紀』（相撲）、『古事記』（角觥）に表記が確認できます。古くより相撲は神をもてなし、豊穰の祈念や勝敗で豊作不作を占う節会（相撲節会）の行事として行なわれてきましたが、やがて人々が観覧する興行に近いものとなりました。江戸時代には、寺社奉行の管理の下、寺社・橋などを作る金品を集めるための勧進相撲が行なわれ、また大会には大名お抱えの力士が藩の名誉をかけて戦ったそうです。

世田谷八幡宮の相撲は江戸三相撲に挙げられる人気ぶりだったようですが、その始まり・土俵設置の時期の記録は確認できていません。逸話として、『世田谷のおはなし』の「すももと世田谷八幡宮」には「太郎左衛門」、『ふるさと世田谷を語る』の宮坂編には「五郎」という怪力の男が鎌倉の鶴岡八幡宮の相撲大会で勝って褒美を持ち帰る話が載っています。また、境内には、力石（力比べで持ち上げて見せる大きな石。重量挙げのバーベルのようなもの）も残されています。

調べものはこれくらいにして、図書館を出て、現地へ向かいましょう。

それでは、世田谷八幡宮の奉納相撲（9月16日）の様子をお伝えします。





← 伝統に則り、神主が祝詞^{のりと}を上げ、土俵を祓い清めます。この後、力士、観客も御祓いを受けます。(当日はあいにくの雨模様でしたが、奉納相撲の前には止みました。)

東京農業大学の相撲部の力士たちが登場。⇨ 四股^{しこ}を踏んで体をならします。(稽古のときは、1日に100回~200回も踏むそうです。)



← ローマのコロッセオのように、すり鉢状の観客席が土俵を取り囲んでいます。見物のお客さんが大勢集まっています。

奇手^{いそ}・居反りが決まりました！(バック ⇨ ドロップではありません) 色々な技を披露してくれました。



今回調べた地域資料等 (いずれも中央図書館に所蔵があります。)

- ・江戸名所圖會 (復刻版: 人物往来社刊 GB2105 など複数あり)
- ・新潮選書 相撲の誕生 長谷川明著 7881は
- ・東京江戸案内 巻の四 相撲と銅像篇 八坂書房 GA2100
- ・東京史跡ガイド⑫ 世田谷区史跡散歩 学生社 GA2100
- ・ふるさと世田谷を語る 経堂・宮坂・梅丘・豪徳寺 世田谷区 GA2100
- ・せたかい 第66号 世田谷区史研究会 GA2100
- ・世田谷のおはなし 世田谷区 GA3880
- ・相撲 土屋喜敬著 法政大学出版局 7881つ
- ・大相撲で解く「和」と「武」の国・日本 舞の海秀平著 KKベストセラーズ 7881ま

賢治の祈り-銀河鉄道の夜から幕が上がるへ-

今年度は、劇団主宰や演劇教育など多方面に活躍されている、劇作家の平田オリザさんをお招きし、中高生の皆さんに向けた講演会を行いました。

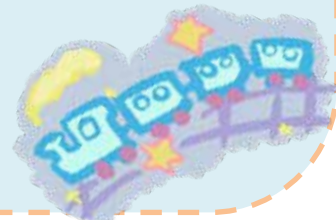
講演では、平田さんの著書『幕が上がる』を書かれたきっかけや、今の中高生たちが将来直面する大学入試改革についてお話いただきました。そして、『幕が上がる』に演劇として登場する『銀河鉄道の夜』の作者、宮沢賢治の言葉を引用しながら、これからの社会で必要とされる力とは何かについて分かりやすく説明していただきました。



アンケートでは「今まで以上に文学や演劇について関心を持てた」「単純な考えでなく自分でよく考えていけるように日々の話し合いなどを大事にしていきたいと思った」などといった前向きな感想を多くいただきました。

内容としては高度でありながら、平田さん独特の語りにより終始和やかな雰囲気、中高生にとっても興味深く充実した講演だったようです。

(参加者82名)



第6回子ども読書リーダー(子ども司書)講座開催

1日目:7月21日(金)または22日(土)/2日目:7月26日(水) 受講者52人(対象小学5・6年生)

1日目:「調べ学習」体験

「調べ学習」のテーマは、普段から気になっていたことや、好きなことから自分で決めます。決められたテーマではなく、自分で好きな事について調べるので、子どもたちは悩みながらも、楽しんで調べ学習をしていました。普段はインターネットで調べものをしている子も多く、図書館に本を探しに行き、本を使って調べるのが新鮮なようでした。「1日はなぜ24時間なの?」「なぜ真ん中に穴の開いている硬貨があるの?」など、気になるテーマがたくさんありました。

↓調べた成果をみんなに発表!



アンケートには、「ずっと疑問に思っていたことが調べられて良かった。」「意外と身近に疑問があり、おもしろいなと思った。今回ていねいにまとめ方を教えてもらって授業でも役立つと思う。」「調べる楽しさを知った。」などの感想がありました。



↓調べてわかったこと、自分の感想を模造紙にまとめます



ドキドキの読み聞かせ

2日目:絵本の読み聞かせや図書館の仕事について体験

まずは、図書館の本の分類方法や、本の各部の名称などを勉強します。そして、いよいよおはなし会!自分で選んだ絵本を読み聞かせします。読み聞かせの仕方は、図書館職員がレクチャーします。みんな緊張した様子でしたが、無事に読み聞かせを終えると、とても良い表情をしていました。おはなし会を聞いてくれた子どもたちも、読書リーダーの読み聞かせに聞き入っていました。おはなし会を終えて、「すごく緊張していたので、声が出づらかったですが、がんばりました。」「本がそらないように、本がぐらぐらしないようになど、読み聞かせは簡単ではないことがわかりました。」などの感想がありました。

新作の図書館落語に笑いの渦

～第8回読書の秋の講演会「落語と読書」(9月18日)～

図書館司書の資格を持つ噺家の入船亭扇治師匠を迎えて、読書の秋の講演会を開催しました。会場は120人の来場者で埋め尽くされ、登壇した師匠は古典落語二席「天狗さばき」「抜け雀」、新作の図書館落語を一席披露しました。この新作は、前日の夜に完成したというまさに最新作で、題名もまだありませんし、もちろんこれが初演。図書館で借りた本の返却が遅れた人が、律義に利子を持って来る噺ですが、その利子が頓智にあふれていて会場は笑いの渦に包まれました。



夜の図書館でぬいぐるみは何をしているのかな…?

第5回ぬいぐるみおとまり会 (8月30日～9月1日)



ぬいぐるみおとまり会とは、幼い頃から図書館に親しみを感じてもらおうと、アメリカで始まったイベントです。

子どもたちが大事にしているぬいぐるみをお預かりして、図書館の中をぬいぐるみたちが探検する様子を撮影してカードを作りました。絵本ではなし会をしたり、パソコンを使って本の貸出をしている写真などを撮影できました。カードを受け取った子どもたちは大喜びで、ぬいぐるみと一緒に抱きかかえていました♪



当日お手伝いに来てくれた東京都市大学の学生さんは、「本を借りるだけの場所ではなく、親子一緒に過ごせて子どもたちや保護者にとって楽しい場所だとわかりました」と話してくれました。



おはなしボランティアさん大集合～夏の大イベント「おはなしいっぱい」今年も大盛況！～

8月23日～25日 世田谷文化生活情報センター生活工房 (キャロットタワー4階)

この「おはなしいっぱい」は、「世田谷区おはなしネットワーク」(世田谷区内のそれぞれの地域で、おはなし会や勉強会をしているボランティアグループの集まり)と「(公財)せたがや文化財団生活工房」がコラボして開催しています。3日間にわたり、いろいろなグループのおはなし会を楽しめます。今年で17回目！おはなし会のほかにも、絵本の展示や原画展もあります。図書館職員も23日に15分間でしたが、出演しました。

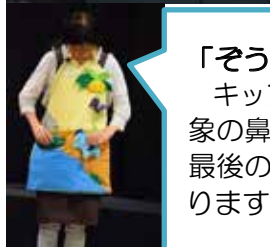
3日間で延べ約1000人ものが参加があったそうです。



「おはなしいっぱい」の入口。ただいま準備中！



「おおきくおおきく
おおきくなあれ」
まついりこ脚本・画
(童心社)
みんなで言ったらおお
きくなりました！



「ぞうのはなはなぜながい」
キップリング作(メイト)
象の鼻はなぜ長くなったのか、
最後のビックリしかけて、わか
ります！！

「びよん」まつおかたつひで作・絵
(ホプラ社)
おやこで、びよん！
赤ちゃんも大人も一緒に楽しそう。



パスファインダーを活用しよう！！

世田谷区立中央図書館 編集・発行

『パスファインダー』とは、ある事柄を調べるときに基本的な資料や情報源を紹介した「情報検索の“道しるべ”」のことを言います。

世田谷区立図書館の発行するパスファインダーは、世田谷区の歴史、文化、自然、産業など多岐にわたる様々なテーマを取り上げて、そのテーマの情報を紹介しています。世田谷区について調べる際の手がかりとして役立ててみてはいかがでしょうか。



1 パスファインダー入門

●パスファインダーの読み方

テーマに関する「キーワード」、「入門的な情報源」、「図書・雑誌・インターネット情報を探す」の各項目から構成されています。

- 「キーワード」は、調べるときや検索するときの手がかりとなる言葉を掲載しています。
- 「入門的な情報源」は、テーマに関する基本的な知識や、図書館で探すときに役立つ情報を掲載しているほか、図書館以外で参考となる機関などを紹介しています。
- 「図書・雑誌・インターネット情報を探す」では、テーマに関する主な資料やインターネット情報をピックアップして紹介しています。

●パスファインダーの使い方の一例

各項目に掲載されている情報を手がかりにして調査をすすめてみましょう。以下は使い方の一例です。

- 「キーワード」にあげられた言葉を使って検索した検索結果から、さらに関連する別の言葉があればその言葉を使って再検索をしてみましょう。
- 「図書・雑誌・インターネット情報を探す」にある主な資料やインターネット情報にアクセスして、その中に「参考文献」や「参考図書」などの一覧があればその資料やインターネット情報へと範囲を広げてみましょう。



2 新着パスファインダーの紹介

●第5号 『世田谷区のお寺と仏像を調べる』（2017年11月発行）

世田谷区内には、数多くの「お寺」や「仏像」が所在しており、その多くは文化財となっています。この号では、「お寺」や「仏像」を調べるのに役立つ資料などを紹介しています。

3 いままで発行したパスファインダーの一覧

- 第1号 『世田谷区の「道の歴史」を調べる』（2016年10月発行）
- 第2号 『世田谷の「代官」を調べる』（2017年1月発行）
- 第3号 『世田谷区の「農業」を調べる』（2017年2月発行）
- 第4号 『世田谷区のゆかりの文学者を調べる』（2017年7月発行）

パスファインダーは、各図書館、図書室、図書館カウンターで配布しています。

新着図書案内



『君たちはどう生きるか』

吉野源三郎著（マガジンハウス）

編集者であり、児童文学者であった著者による名著の新装版。最初にこの本が発行された1937年は軍国主義が進んだ時代ですが、戦争の色は全く感じさせず格差社会、いじめなど今にも通じるテーマが温かい言葉で綴られています。



父を亡くしたコペル君には、母の弟で大学を出てまもない法学士の叔父さんがいます。ある出来事でコペル君が後悔し、悩み、決断する過程でも大きな助けとなりました。

子どもたちに向けて書かれた本ですが、すべての世代が共感でき、これからの人生をどう生きるか考えさせてくれる1冊です。

【請求記号 J15茶】

『私鉄郊外の誕生』

片木篤編（柏書房）

全国20社の「私鉄」沿線の戦前・戦後の「郊外」開発の歴史の変遷を論じた各論と、編者による総論から構成されています。この本は「郊外消滅」の悲観論や、ノスタルジックな懐古論に組みすることなく、実はそれらに記述されていることの少ない「タウンスコープ」（都市計画や建築といった物理的環境）を、図面・写真・文章で再現していきます。



ある方の住む家は、
どのようになり、形成されてきたのか？
私鉄沿線に郊外開発の軌跡をたどる。

そこでは、地区全体や住宅その他の建築がどのようにデザインされ、生活の中でどのように使われたかに焦点が当てられ、ハード（都市と建築）とソフト（生活）の相互作用による郊外の形成と発展が明らかにされています。

【請求記号 3617し】

『ミツバチの教科書』

フォーガス・チャドウィック他著
伊藤伸子訳（エクスナレッジ）

ミツバチの家畜化の歴史は長く世界中で養蜂が行われています。本書では人間に一番身近な昆虫のひとつミツバチの「不思議な生態」から、「どうやってミツバチを引き寄せるか」「養蜂のノウハウ」「蜂蜜を使った日常製品のレシピ」まで紹介しています。特に興味深いのはミツバチの社会性です。ミツバチのコロニーは、女王バチ・働きバチ・雄バチが1個の個体のように振る舞う「超個体」と考えられます。また女王バチの子は女王バチの性質を受け継ぐため、気難しい女王からは気難しいコロニーができます。おいしい蜂蜜を食べながら、どんな性格の「超個体」が作った蜂蜜なんだろうと思いを馳せてもおもしろいかもしれません。



【請求記号 6469み】

『毎日のごはんは、これでいい』

牛尾理恵ほか著（主婦の友社）

食べることは毎日のこと。だからこそ、料理をすることがおっくうになったり、自分や大切な人の健康を考えて、いつの間にか献立を考えるとプレッシャーになっていたりしませんか？



この本では、料理研究家7人が日常の食生活について語っています。

登場する料理研究家は、料理番組やレシピ本をよく見る方にはお馴染みの7人です。子育て中の方もいれば一人暮らしの方もいて、食生活からそれぞれの個性がうかがえます。

各料理研究家が薦めるレシピも載っているので、毎日の食生活の参考にしてみてもいいかがでしょうか。

【請求記号 5960ま】

図書館からのお知らせ♪



「学びのプレゼン（大人のビブリオバトル）」出場者募集！

& 講演会を開催!!

「学びのプレゼン（大人のビブリオバトル）」の出場者を募集しています。
他の人にもぜひ読んで欲しいお薦めの本を5分で紹介してください。

日 時：1月27日（土）午後1時30分から

対 象／18才以上〔区内在住（抽選7名）〕

詳細は、図書館で配布のチラシまたは図書館ホームページにて。＊応募締切は12月15日（金）

●ビブリオバトルの後に講演会を開催します。講師は内野安彦氏（ライブラリアン・コーディネーター）



家庭読書の日記念講演会

「子ども—絵本—わたし」

絵本「わたしのワンピース」の作家が、
家庭での読書にまつわる楽しさなどを豊富な
エピソードをまじえてお話しします。

日 時：12月9日（土）午後2時～4時

講 師：西巻茅子氏（絵本作家）

*申込方法など詳細は、「区のおしらせ11月
15日号」をご覧ください。



第2回 中高生の読書会

友達と一緒にでも、気軽に1人
での参加も大歓迎です。

日 時：12月17日（日）

午前10時30分～12時

テーマ：冒険

*詳細は図書館で配布されるチラシをご覧ください。



待ちました！クリスマスの楽しいイベント！



『クリスマス おりがみをおろう』

日時：12月14日（木）

午後4時15分～5時

対象：小学生（小学生未満は保護者同伴）

講師：佐藤 由美子（折り紙講師）

何を作るかは当日のお楽しみ！？



『クリスマスおはなし会』

日時：12月20日（水）

午後3時30分～4時10分

対象：3歳から。親子でどうぞ！

今年もサンタさんが大きな袋に
プレゼントを持ってあらわれる！？



◆会場は、いずれも教育センター（中央図書館）3階です。

編集後記

最近はずっかり冬めいてきましたが、それでも以前に比べればだいぶ暖かいようです。
気象庁監修の「気象年鑑」をみると、2016年11月の平均最高気温は17.8℃、平均最低気温は10.7℃となっていますが、20年前の1996年11月は同16.7℃及び8.7℃だったそうです。最低気温で2℃の差がありますが、高度100mごとに気温が0.65℃異なるため、約300mの高低差。緯度1度分が気温1℃に相当するため、2℃は約222kmの南北差となるそうです。（『2℃の違い』を知る絵本 佐伯平二著より）
この距離は、東京から福島くらい、高さでは東京タワー（333m）の天辺に近いですね。
夏が猛暑だと冬は厳冬になるといわれますが、今年の冬はどうでしょうか。いずれにしても、お風邪など召されませぬようお気をつけください。